

通信簿

加藤 誓 (ちかい)

音楽は、小学校1年生から高校3年生までオール5で、高校の時は合唱部にも所属し「歌劇」までやった。

ところが、世の中に出たら、歌謡曲、演歌、小唄などが上手く歌えるかどうか評価対象となる。

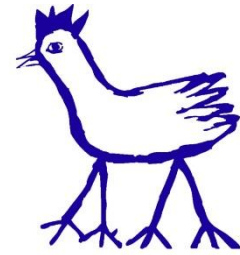
宴会の場や、バーやスナックなどで歌うのに「唱歌」を

はじめ学校で習った歌を唄うのは合わないというより「空気が読めない」と馬鹿にされる。

演歌は特有の発声方法、リズム、こぶしや裏声、ビブラート、語りなどの技術を使う、いわゆる「味のある歌い方」が重要なのであるが、私にはこれが出来ない。

声を張り上げすぎたり、テンポが伸びたり、音程が狂ったりする。

広島繁华街「流川のスナック」にひとりで通い詰めママから当時流行っていた



「都はるみ：大阪しぐれ」を何度も習い持ち歌にするのに苦労した。

世の中での音楽の通信簿は3なのである。

体操は、小柄でもあり、短距離も遅く、水泳も下手で、小学校から高校の通信簿はオール3であった。

ところが、大学では、「卓球部キャプテン、駅伝の選手」で突然5の評価となった。

世の中では、ソフトボール、草野球、ボーリング、ゴルフなどの球技をはじめスケート、スキーなど要領よくこなし、皆からの評価は5であった。

図工は、小学校から世の中までオール2なのである。幼稚園の時、鳥の絵を描こうとすると楕円形の体形の鳥に足を前の方に2本、どうも不安定なので後ろにもう2本描く。4本足の鳥が出来上がる。猫も犬もトラも狐も同じ絵で区別がつかない。

中学になっても、鉛筆での下書きまでは何とかこなしても、絵具を塗ると幼稚園の絵となってしまふ。工作も、もう少し良くしようとして構い過ぎ、壊れてしまふ。

釘ははみ出るし、机の脚が揃わない。時計のバネが何個飛んだことやら！

次は習字。中学の先生が「書道家」で紙をはみ出る様な勢いが大事と習い、毛筆、ペン字は全然だめで「釘折れ字」となり自分での評価は2で、筆不精となった。

ところが、パソコンが使える様になってからは、字の下手（行書体、明朝体使用）

絵の下手（挿絵、イラスト利用）を克服？出来るようになり、筆不精を解消することが出来るようになった。

同じように、音楽も最近「AIカラオケ」で音程、リズムもとりやすく適当に唄える時代となった。

体操もゴルフ、グラウンド・ゴルフ等をゲーム感覚で楽しみとし、適当な散策程度でOK、図工も、知り合いの「個展」や「趣味の作品展」などを鑑賞し、楽しめればOKの年齢となった。

つまり、これからの通信簿の評価をオール5にする方法は、

只ひとつ「健康で長生きすること」と気付いたのである。